

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人堺市文化振興財団	
施 設 名	堺市民芸術文化ホール（フェニーチェ堺）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内定額(総額)	8,442	(千円)
公演事業	8,442	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	0	(千円)







## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>堺市における中枢文化施設（堺市の文化政策を推進、具体化していくための中心的役割）として、堺市民芸術文化ホール（フェニーチェ堺）は、「①堺らしい新たな文化や都市イメージの創造・発信②市民の文化・交流・創造活動の支援③文化芸術の普及・人材の育成④地域の活性化とまちづくりに寄与」を社会的役割・ミッションに掲げており、これらは、「自由都市堺市文化芸術まちづくり条例」及び「自由都市堺文化芸術推進計画」を踏まえたものとなっている。</p> <p>令和元年 10 月にグランドオープンしたフェニーチェ堺のオープニング公演においては、これらのミッションを果たすべく企画された「伝統芸能の次世代の継承／人形浄瑠璃・文楽」「市民に優れた舞台芸術を鑑賞する機会の提供／武満徹のミニフェスティヴァル 3 日間」「堺の歴史を俯瞰する堺らしい文化芸術を市民が鑑賞する機会の提供／アントネッロ南蛮公演」を行い、予定を上回る集客を達成するとともに、多くの来場者から新しく誕生したホールで今までにはない感動を得ることができたと声をいただくことができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>「自由都市堺市文化芸術推進計画」の重点的な取り組みとして、「1）文化芸術の力を活用した社会的課題の解決 2）次代を担う子どもたちを対象とした文化芸術事業の充実 3）文化芸術を支える人材の育成 4）次世代への文化芸術の継承」を位置づけている。</p> <p>堺市には令和元年 7 月に世界文化遺産に登録された「百舌鳥・古市古墳群」の百舌鳥エリアが存在する。国内最大の前方後円墳で知られる仁徳天皇陵古墳を含む数多くの古墳が 1600 年もの間、市民により守られてきたことは世界遺産委員会からも称賛された。このことからわかるように、堺の人々は豊かな歴史文化資源を大切に守り、「茶の湯」文化のように発展させ将来に引き継いでいく力を有する。フェニーチェ堺においてもこの DNA を発揮させる文化芸術活動が求められる。</p> <p>そのため、今回の公演ラインナップにより、大阪が誇る文楽という伝統文化の次世代の継承を継続できたことをはじめ、没後益々評価の高くなっている日本人作曲家武満徹の回顧公演では、鑑賞機会のそう多くない作品を目当てに全国から堺へ参集されたことに加え、助成によりプログラムに英訳を付けることができたことなどが、我が国の文化芸術領域における国際プレゼンスの向上に寄与したと考えられる。また、アントネッロ南蛮公演では、堺に縁のあるザビエルを企画の中心に据え、古楽の調べとともに我が街堺の歴史への理解や浪漫を感じつつ、新たな文化や都市イメージの創造・発信に寄与する事業として「文化芸術のまち堺」としてのまちづくりにつなげる効果があった。</p> <p>以上から、文化的、社会的、経済的意義を継続して認めることができると考えている。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

公演事業における入場者数については、「文楽公演」は2日とも完売、「武満徹のミニフェスティバル」については、入場者の関心も高く、目標を上回る集客を達成した。反面、「アントネッロ南蛮公演」は目標に届かなかった。その要因として、フェニーチェ堺全オープニング公演期間の3ヶ月間に約60公演を実施したうちの3公演であり、全体の事業を進捗することに多くの時間を取られてしまい、広報が不足したことが考えられる。

また、全事業で公演アンケートを実施し、オープニング公演であるため入場者数のファン層の把握に努めた。「①年齢層②市内外の居住地③公演情報入手経路④公演意見」を主な質問項目とした。入場者のうち、「文楽公演」や「アントネッロ南蛮公演」は5割強が堺市民であり、市民に大きな関心が寄せられた。「武満徹のミニフェスティバル」については、7割が堺市外からの入場者であり、遠方からでも来場されるコアなファンが多いことで堺市の発信として有効であった。

主な意見として、はじめて「文楽公演」に触れられる方も多く、公演冒頭の「三業の解説（太夫・三味線・人形）」が公演内容理解する助けになったようである。人形が本格的な茶の湯の点前を披露する演目「生写朝顔話」笑い薬の段などは、大いに会場が湧いた。そのため、定期的な「文楽公演」実施を望む声が多く、伝統芸能の継承をしていくうえで、文楽ファンを堺の地にも根付かせるきっかけに、市民をはじめ多くの人々が文楽に対する理解を深めるためにも有効であった。「武満徹のミニフェスティバル」では、武満徹を取り上げた本格的な企画に対する賛辞が多く、コアなファンをはじめ、あまり馴染みのない現代音楽を視聴する機会を提供することができた。さらに、アントネッロ南蛮公演では、フランシスコ・ザビエルという堺にゆかりのある人物をフィーチャーした物語設定で古楽を視聴する機会が、過去にタイムスリップした感覚を思わせたなどの意見があり、堺の歴史を踏まえた企画構成で入場者に堺ならではの公演を体感してもらうことができ、その面の目標としては達成できたと言える。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

優れた文化芸術を発信する拠点として、約 60 公演のラインナップのうちに占める当 3 公演についても 8 割の入場者を確保することとし、計画を進めた。

ひとりのスタッフが時期を同じく並行して担当する公演数も多くなり、日々の対応に追われたため販売開始前の広報などを各公演予定通りに進めることができず、券売もそれに影響されることとなった。

事業費としては、特に「文楽公演」は、演目による出演料が当初よりかさみ、また文楽回しを含む舞台装置の作りこみに想定以上の経費を要した。また、フェニーチェ堺は、次世代字幕型メガネを 30 台備品として保有しており、今回の「文楽公演」にあわせて実証実験を行い、希望者に無料貸出を行った。日本語字幕を舞台上の表示とともに字幕メガネでも表示できるようにし、舞台と字幕との視点の移動が少なくなるメリットがあり、新たな視聴ツールとして活用できることを検証できた。ただし、字幕操作のオペレーションについても、専門業者に頼る必要があり、別途経費が発生することとなった。今後、継続的に「文楽公演」の実施を計画しているので、自前のできる箇所を増やし、コストダウンにつなげる努力を行う。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

フェニーチェ堺は前身の堺市民会館の建て替えに伴い、平成30年2月に竣工し令和元年10月にグランドオープンした大阪府内で唯一2000席の大ホールを有する公共ホールである。堺市が策定した「(仮称)堺市民芸術文化ホール運営管理方針」において、「市民が誇りを感じる文化的環境の充実」「まちづくりの視点」「市民との協働の促進」を基本方針に掲げており、フェニーチェ堺が多目的ホールであること、2000席の規模と高度なスペックを有するホールであることに加え、これまで大阪市内に行かなければ観られなかったものや、堺らしさを体現するオリジナルな芸術文化を創造することにより、市内外の来場者にホールを通じて堺の都市魅力を伝える絶好の機会となった。

今回の事業は、当ホールのエグゼクティブ・プロデューサー佐野光徳を中心に小ホールでは、「創造性のあるひねりを効かせた企画」を実施しようと考えた。

「文楽公演」において、ホワイエで野点席を設け、茶の湯のまち堺を再認識できる機会を創出できた。また、堺市内で本格的な「文楽」を実施できるホールとして、その機能を発揮した。

イエズス会宣教師「フランシスコ・ザビエル」の一生を当日の音楽と共に再現した「アントネッロ南蛮公演」では、公演終了後に400年前にザビエルが居留した堺の旧市街地めぐりははじめる人が多く出現するなど、まちを見つめる新しい視点をこの音楽公演を通じて提示することができた。決して古楽ファンが多いとは言えない本市において、市民をはじめ多くの人々に堺の歴史にまつわる音楽を披露できたことは、そのオリジナル性を含め、拠点ホールの役割を果たしたと言える。

「武満徹のミニフェスティバル」1日目は、プロデューサーである杉山洋一氏がこだわった大阪万博(EXPO'70)

以前の音、日本が高度経済成長真っ盛りのエネルギーが高かった時代の音の再現に、演奏者も観客も驚きと発見と興奮の時間を共有した。2日目の合唱は、半年前から名指揮者西岡茂樹氏のもとで練習を重ねた大阪のプロとアマの混成合唱団が、難易度の高い混声合唱のための「風の馬」を見事に唱いあげ、武満徹ファンをうならせた。3日目の極めて親しい人々からのアプローチで武満徹を知る試みは、涙あり笑いありの公演となった。このフェスティバルは、通し券(3日間)で来場されている方が1/3以上おられ、3日目終演時はスタンディングオベーションがおこる熱気に包まれ、企画を熟考し、出演者同士、連日の観客を武満徹という希代の音楽家への「想い」で繋ぐ構成・演出・制作を実施できたことは、次へ繋がる良い起点となった。日本が誇る武満徹に焦点を当て、その作品をテーマ別に3日間実施したことは、拠点施設として胸を張れるプログラムを創れたと考える。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

文化事業全般において、具体的な数値として評価指標を定め、定量的な評価を実施することが、PDCA サイクルを回すことに有効であることに鑑み、市の有識者で構成される堺市文化芸術審議会委員により自由都市堺文化芸術推進計画に掲げる基本的施策に対する成果指標について、毎年対象事業を定め、達成度や効果等の測定を行うこととしている。

また、フェニーチェ堺は平成 28 年 10 月より開館前準備期間を含め指定管理者の管理運営期間がスタートし、令和 5 年 3 月までの 7 年 6 ヶ月の期間としている。地域における核となる中枢文化施設であるフェニーチェ堺の指定管理者として開館当初から管理運営を担っており、指定管理者選定委員会の議論の中でも、長期的なビジョンを持ち、人的ネットワークの構築や人材育成を行うことが必要であるなどの意見から地域に根差した文化芸術事業を実施してきた当財団を非公募で選定することとなった。

助成対象となった 3 公演は、次に示す地域の文化芸術の発展の効果があつた。「文楽公演」では、演目の中にお茶を点てる場面があつたことから、平成 30 年 10 月に施行した「堺市茶の湯まちづくり条例」を踏まえ、堺市の茶人及び大学生の協力を得て、ハワイエにおける野点席で抹茶及び和菓子を提供し、堺の文化に触れる機会とした。「武満徹のミニフェスティバル」では、堺市合唱連盟をはじめ市内に存する多くの合唱団メンバーが、武満徹の合唱作品を聞くために来場し、地域文化の底上げに寄与した。「アントネッロ南蛮公演」では、堺にゆかりのある「フランシスコ・ザビエル」をフィーチャーし、堺の歴史文化に触れる機会を創出することができた。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

「文楽公演」については、小ホール舞台上手側に文楽回しが設置可能な機能を備えており、毎年定期公演を計画している。伝統芸能の発信及び若手技芸員育成の観点から若手会の公演も実施し、堺から大阪の文化芸術を持続的に発信していく。桐竹勘十郎氏に開館前のプレ事業から企画協力を頂くとともに、国立文楽劇場のスタッフ等とも知り合え、様々な情報交換などを行えるようになった。加えて、オープニング公演を行えたことで、より持続的にフェニーチェ堺が文楽に取り組む素地が強固となり、持続的に発展してきたと考える。

「武満徹ミニフェスティバル」に関しては、3日間の通し公演を実施するにあたり、同テーマで行うため何か月も前から内容、ボリュームバランスなどについて各公演プロデューサー・出演者との相互連絡を密に行い交流が深まった。そのため、公演後も当日の様子をTwitterなどで発信してくれる多数の出演者や、翌日、翌々日の公演を延泊しながら聞き続けるアーティストも現れ、武満徹という偉大な音楽家を通して、今後につながる関係性を築きつつある。また武満徹は海外で評価が高いこともあり、全48ページにわたる当日プログラムを、武満徹研究家である小野光子氏に依頼し全編英訳をつけていただけた事も幸運であった。

「アントネッロ南蛮公演」に関しては、400年前の日本の歴史、ザビエルが滞在した頃の堺の様子を、日頃、「観光まち歩き」でガイドを担う「堺観光ボランティア協会（会員数約250名）」メンバーへの声かけを行い、今後の協力体制の足掛かりとした。また堺在住の世界的に有名なフォルテピアノ修復・調律家である山本宜夫氏からも協力を得ながら公演広報活動を行ったことにより、今後の企画に発展する良好な関係に繋がっている。

令和元年10月オープンの当劇場の運営にあたって、オープン前の準備期間を含め、非公募の指定管理者である当財団が長期的に安定した運営を行ってくために、舞台技術及び事業担当の専門人材を確保することに苦心し、開館前は当財団に正規職員（プロパー）がいない状況であったが、令和元年度から契約職員の正規職員への登用を進め、組織強化を図っている。今回の公演も含め制作型事業を進めることや、他劇場との交流が進み、ノウハウや人的ネットワークの構築が進んでいる。